

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400032		
法人名	有限会社 アーバン・エステート		
事業所名	グループホーム ごえくの里		
所在地	沖縄県沖縄市越来3－11－20		
自己評価作成日	平成 25年 9月 10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790400032-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成25年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の一角にあり、2階に住居がありベランダからは、山や畑が見え、小鳥のさえずりを聴きながら自然と触れ合い生活している。症状の違う入居者同士が、家族の様にそれぞれの個性を生かし、お互いに協力しあい認め合いながら日々生活している。又其々ができる事や穏やかで楽しく過ごせる事等、職員が「自分ならこうして欲しい」「こうならない」を念頭にいれ、相互関係で日々の活動に取り組んでいる。体調不良時等急な対応にも応じ健康面など安心して生活ができるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・前年度を振り返り、地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い理念を見直し、「ありのままの姿を受け入れ、微笑みあふれる日々を過ごす」を理念としている。一人ひとりの課題を検討し、統一したケアを支援している。・事業所での看取りを支援し、入居者も一緒にお別れしたことで、「私たちもここに最期まで居ていいんだね」との声が聴かれ、入居者の安心感に職員も励まされ、今後も希望があれば受け入れていきたいと考えている。・全職員が年2回の自己評価を行っており、個々の目標を立て自己研鑽に励んでいる。職員の、「ワーク・ライフ・バランス」が考慮され、働きやすい環境作りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

確定日:平成25年12月3日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき日々の生活の中で、入居者の思いや希望は何かを常に考えながら、勉強会や話し合いを通し、統一したケアの実践に繋げている。	理念は前年度を振り返り、地域密着型サービスの意義と現状を踏まえ「一人ひとりの思いを受け止め、穏やかに過ごせるように」を目指して、全職員で見直しをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーの定員さんや公園で近所の方と談話したり、自治会の行事に参加したり、又施設の行事には保育園児や老人会の方にも参加してもらうと共に、本人の要望により住み慣れた自宅近くの方へ会いに行く等、地域のかたと積極的に交流を図っている。	事業所開設当初から自治会に加入し、地域行事への参加、保育園等との交流がある。又、日常的に散歩や買い物等に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わすなどしている。学生の実習受け入れや、夏休みに地域の小学生対象認知症勉強会を行うなど、認知症理解への活動も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や見学にいらした方・知人・近所の方等面会にいらした方へも認知症について理解できるよう分かりやすく説明している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し事業所の行事や状況報告を行うと共に参加者からのアドバイスや内容を参考にしながら質の向上に努めている。	会議は奇数月の第3水曜日を定例として年6回開催している。事業所の活動状況や外部評価、地域の情報、相談等が報告され、訪問販売詐欺の情報では認知症の方への見守りや民生員、行政に繋げるなど地域づくりにも活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報交換や介護保険や自立支援申請時や医療券を取りに行きながら担当者へ状況報告や来居した時に近況報告したりしている。	市担当者とは介護保険の申請や会議の案内文等を直接届けたり、事業所の実情や生活保護者等の相談を行うなど、日頃から連携を図っている。行政からは講演依頼や介護者交流事業等の情報提供などがある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回の勉強会で再確認し新人には新任研修等を行い常に職員が身体拘束に対する理解と認識を得ており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険が予測される場合はその都度どのようなケアを行えばいいか、話し合いを行い拘束しないように取り組んでいる。	いざり移動する利用者に洋室から和室に寝具も布団に替えることで、居室から自由に移動できるようにしたことや、一人で出ていく方には見守り対応や地域の方への周知と協力をお願いしている。おむつパットをちぎってしまう行為に、好みのワンピースに替えることで良くなるなど、行動を制限することなくケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の勉強会や新任研修会を行い常に職員が虐待に対する知識を持ち、お互いが言葉使いや態度等、注意し入居者が安心して暮らせるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回の勉強会で再確認し新人には初任研修会を持ち、職員の理解と認識をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込み時の際に概要や料金の説明を行い納得した上で契約を交わすが、再度入居時や法改訂のための料金変更がある場合は、十分に説明を行い納得、理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・知人の面会時、入居者の入居状況や身体状況を説明し、又自宅訪問して状況報告しながら家族の意見や要望を聞くように心がけている。	家族より、退院後の入居者の食事に関しての要望や「下肢の筋力低下があるので立位訓練をして欲しい」、入居者から「夜間お腹がすくので時間を変更して欲しい」との希望に時間調整をおこなう等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の自己評価や、ミーティングの中で自由に意見交換して業務や運営にいかしている。	随時のミーティングや申し送り等で自由に意見や提案ができ、支援対応に困った時は管理者や職員に気軽に相談できる。資格修得や休暇等の勤務調整も容易にできる。毎月の勉強会や年2回の自己評価では目標を立て、振り返りを行うなど知識、技術の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や自己評価表を用いて、職員の思いなど把握し、お互いが協力しながら、気持ちよく働ける職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が積極的に知識が高められるように勉強会を担当性にしたり、外部の研修に参加できるように勤務調整したりしている。又お互いのケアの方法を意見交換して質を高めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所以外の方とも行き来しながら情報交換を行い、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や見学相談時等、本人の不安・困っていること聞き、自宅又は病院を訪問し環境や身体状況の把握を行い、信頼関係を築き安心して生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学相談時等、家族の困っていることや要望を聞き、本人・家族が生活している環境や身体状況の把握を行った上で本人に必要な事は何かを一緒に考え、一緒にケアしていくという意識の中で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族を含めた話し合いの中で、本人に必要なサービスは何かを一緒に考え、他のサービスの情報も提供した上で、本人家族が決定した事を基に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることや興味・趣味等を把握して、家族の一員として一緒に楽しみながら生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のできない部分を補い、本人と家族の糸が途切れないように、心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行きつけの買い物場所や知人の家など一緒に訪問したり、いつでも誰でも面会に出来るような環境作りに努めている。	新聞で馴染みの場所でのイベント情報を見て、話題にして出かけたり、チラシを見て買い物に出かける方もいる。馴染みの美容室の利用や知人、友人、兄弟等が訪ねてこられる。定期受診後に以前の自宅に寄ったり、入居者の出身地で色分けした沖縄地図も掲示し、関係が途切れないよう環境作りをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりがうまくいくようにテーブルの配置など考慮しながら、孤立しないような取り組みを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も退去先に訪問したり、家族に電話をいれ状況を把握したりして、相談に乗ったり、又いつでも来所してもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族から事前の情報や、面会にこられた親戚や知人からも以前の生活や性格・活動状況などを会話しながら聞き、又本人と日々の会話の中から把握するように努めている。	入居者の思いは、アセスメントや日々の会話の中から、又、表出困難な方の希望や意向は家族や兄弟、知人等からの情報、表情等から把握に努めている。遠方にいるご家族には電話やお手紙で情報提供している。入居者一人一人をありのままに受け止め、本人本位の入居者会議録を作成し、情報を共有し統一した支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や知人：家族からの事前の情報収集や、毎日の行動の中から把握するするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々違う症状の中で、身体状況や表情等を観察し、何を言おうとしているのか、どのような力があるのか、常に考えながら一つ一つ挑戦しながら、個々の力を発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時の担当者会議、体調の変化や必要に応じての会議で、本人や家族の思いを踏まえて本人・家族・職員の納得した介護計画を作成している。	担当者会議は家族が来所した際に職員も参加して開催している。介護計画は更新時や状態変化に応じて随時見直している。ご本人やご家族からは日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、職員間ではミーティングや会議で気づきや工夫を個別に記録しケアの統一を図り、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日本人の状況を個別に記録し、普段と違う状況がある時には詳細を支援経過に記録し、職員が共有し見直しの介護計画に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族の介護力にあわせて病院受診や買い物等、又緊急時の対応など臨機応変対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生育歴や思いを参考にしながら、季節に合わせた行事を行い楽しみが持てるように務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は入居前の病院を利用しており、身体状況に応じて情報提供書や実際に受診付き添い主治医との連携をとり、病状が悪化しないように務めている。症状にあわせて本人の意見を参考にしながら受診するなどしている。	馴染みのかかりつけ医を継続し、受診は家族対応を基本としている。半数の入居者には家族が同行又は職員が対応し、専門医や訪問歯科も支援している。情報提供書や電話等、必要時には体重表やバイタル表を持参し適切な医療が受けられるよう医療機関と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入浴時やケア中気づいた事があれば、申し送りノートや業務日誌に記載して、いつでも情報が共有できるようにしており、不在時は電話連絡して、看護師に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	体調不良時は看護師や状況把握している職員が受診付き添ったり、情報提供書を作成したり、病院面会に行って情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対して考えたくないとの家族も多くおり、本人及び家族の受け入れに応じて最期の確認をしている。必要時は文章で確認をとり、見取りの時は本人及び家族・主治医を混えて話し合い、納得が行くように努めている。	「重度化した場合の事前確認書」「看取り看護についての同意書」も整備され事業所の方針については契約時に説明している。家族には歳を重ねて、目に見えて低下していくありのままの姿を受け入れてほしいとの思いで、積極的に面会の促しや居宅を訪問して状態を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回や必要に応じて事業所内で研修会を開き、急な場合でも職員が慌てないで対応できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えた火災訓練を実地しており、消火器の訓練や夜間を想定した訓練を行っている。停電の時はオール電化なため卓上ガスコンロ等の準備もされ職員は慌てないで実地できるように工夫している。	消防署協力の下での総合訓練(通報、初期消火)と市主催の津波時の避難訓練を実地されている。総合訓練には近隣住民に防災訓練の協力願いを配布し、地域(長生会、警察、ボランティア)の方も参加している。夜間想定での避難訓練は確認できなかった。	昼夜想定での消防訓練が望まれる。入居者、職員が安全に避難できるよう夜間想定での避難訓練の実施に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長時間一緒にいると、馴れ合いになってしまいがちだが、相手の人格を尊重し、尊敬し、プライバシーに配慮しながら、言葉使い等気をつけ、ケアにあたっている。	一人ひとりの個性を大事にし、「待つ時、待たせる時」ゆとりのある声掛け、言葉使いに気をつけて支援している。接遇やプライバシーについて新人研修も行われ、事業所の年間計画の11月に「プライバシー保護について」研修が予定されている。昨年のステップも達成されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や仕草・態度などから何を求め何を思っているかを察知して、何気ない言葉掛けで、自己決定ができるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを基本とするが、その日の身体状況や精神状況を把握して決まった日課ではなく、本人に合わせて臨機応変に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のお気に入りや必要と感じる衣服等、行きつけの衣料品店に買い物に行ったり、顔のマッサージを行ったり、美容に関して楽しみがもてるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、入居者・職員で季節の食材を取り込んだら、懐かしいメニューを考案したり、教わりながら買い物や調理をして、楽しみがもてるようにしている。又盛りつけや下膳が可能なのは自分で行っている。	朝、夕の食事は事業所で調理し昼間は法人事業所より配食を受けている。入居者は下ごしらえや下膳、食器洗いに参加している。食事形態や介助方法を工夫してミキサー食からきざみ食に変わった方や遅く朝食を摂る方は昼食の時間をずらしている。職員も同じテーブルで一緒に頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄及び水分確認表を作成記録行うことで、個々のバランスが分かり、1日をトータルとして計算、又本人に合わせた食事形態にしており、できるだけ自分で摂取できるように工夫して。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアを行いながら、訪問歯科も利用し専門的なアドバイスを受け、口から食事が取れるように工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を作成、毎朝申し送りの際に排泄の確認して、(排尿・便)がうまくできるように、定期的にトイレに行くようにしている。	自立している方が3名で、その他は一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。昼間は綿パンツやリハビリパンツで夜はオムツやポータブルで対応している。排泄時の状況により利用者自身で取り換えられるよう、さりげなく声掛けし対応する等、清潔保持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄の確認を行い、水分量を増やしたりメニューの中に取り入れたり、又必要に応じて主治医の助言の元内服を服用したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の要望を取り入れ時間の設定はなく、個別で入浴をゆっくりと行い、日中だけでなく、寝る前等本人のペースにあわせている。	入浴は一日置きを基本としているが、希望により昼間と寝る前と2回入浴する方もいる。見守りと半介助で行い、入浴セット(好みのシャンプー、石鹸、化粧水等)持参で入浴する方もいる。入浴拒否の方には、時間や曜日を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具類、採光等本人にあわせて調整行い、自宅での居室にあわせて和室(畳間)にしたり、睡眠確認表を参考にしたりして、睡眠が十分に取れるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更が或場合は、申し送りノートに記入しており、職員の共有に努めている。又文献はカルテに添付、いつでも職員が確認できるようにしており、必要に応じて本人へも納得が行くまで説明する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の要望を取り入れ、天気のいい日のドライブや季節にあった行事の活動を通して、楽しみが持てるように工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や体調にあわせて買い物や散歩など行なったり、歩行が不安定な方はベランダに出て、外の空気を朝日を浴びたり家族の協力の元行きつけの美容室に行ったりしている。	戸外に出ることは多く、周辺散歩や近隣公園、ドライブに出かけている。初詣、桜見学、浜売り等や新聞、イベントの情報で希望があれば出かけている。大型店舗に出かけ好きな食べ物や衣類等の買い物を計画しプランに反映している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より嗜好品を購入のための小遣いを所持し、必要時は家族と買い物等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や要望時はその都度応じ、不安解消や楽しみが持てるようにしており、正月には家族に年賀状を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは光が入り明るい、夏は夕方西日が入り、眩しいため、カーテンをしめクーラーの調整を行い、快適に過ごせるようにしている。季節にあった飾りつけ等を行い、又本人落ち着ける場所でくつろげるような工夫をしている。	事業所は2階で、階段口や壁には季節を感じてもらう為に、意識して季節の花や飾り、協同の作品を飾っている。共用のホールは明るく、クーラーの風よけも工夫している。ホール近くに共用空間の台所、浴室、トイレ等があり入居者が活動や移動しやすいようにテーブルを配置しいつもの席で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファが設置してあり、ゆったりとした時間がもてるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使用していたベッドや鏡等を設置したり、ゴザを敷いたり、ラジオやテレビ等活用し落ち着けるような居室になっている。	居室は入居者の意思や個性を尊重し、家具の配置や衣類の整理も出来る限り本人が行っている。ラジカセ、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や作品が飾ってある。居宅で過ごしていた環境で過ごせるように、畳間と布団に変え行動範囲が広がると共に危険防止にも繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、身体・能力にあわせて安全に過ごせるような取り組みをしている。		